

みんなといると、
笑ってた。
ひとりになると、
泣いていた。

なぜ、あえて、
いじめ体験と向き合うの？
梅原先生、教えてください。

私は、和光で「いじめ・不登校の教育学」という授業をずっと続けてきました。

この授業では、学生自身のいじめ体験を

匿名で書いてもらい、それをまとめたものをテキストに

しています。その理由は、学ぶ材料は学生自身の中にある

と考えるからです。学生の多くは加害者、被害者、

その両方、傍観者、それぞれの立場を経験しています。

テキストを読んだ上で、たとえば

「傍観者にはどんな立場があるのか？」というような

議題を皆で決め、小グループに分かれて討論、発表を

行います。学生からの意見はどんな意見でも構いません。

大切なのは、他者の異なる意見・体験を知ることにより、

「無関心という加害行為もあるのでは？」

「傍観者もいじめられるのが怖いんだ」などと、

いじめに対する考えを少しでも深く、

少しでも広げることです。さらに、このような

体験を通じ、自分なりのモノの考え方を

獲得してもらえたらと思っています。



心理教育学科
教授 梅原利夫



和光3分大学

10月のオープンキャンパス

10/22(土)13:00~16:00

推薦制入試
(公募制)

出願期間 10/28(金)~11/11(金)必着

試験日 11/19(土)または11/20(日)

現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学